

# 11. 京田辺市立三山木小学校との 地域学習プロジェクト

文化遺産学コース3・4回生

## 1. はじめに

2022年11月4日に、京田辺市との連携事業の一環として京田辺市立三山木小学校4年生180名への地域学習プロジェクトが実施された。このプロジェクトは遠足という形をとり、児童が三山木の魅力を知り郷土愛を醸成する事を目的とした。なお、参加学生は文化遺産コースの4つのゼミ（考古学・地理・建築・文化情報学）に所属する3・4回生である。

## 2. 事前準備

遠足当日までの活動について述べる。

4～5月 4月に各ゼミから代表者を決定し、代表会を「F会」と名付けた。佐牙神社を含めた3点の学習ポイントを各ゼミから提案し、5月12日のF会会議にてプレゼン後、佐牙神社はA班が、山本駅・寿宝寺はB班が、茶畑はC班が担当することに決定した。なお、各班の班長・班員はF会が選出した。

6～9月 6月10日に上杉和央（教員）、藤川聖起（4回）、武田知奈（3回）が三山木小学校にて小学校教員と打ち合わせを行い、日程・学習ポイントを確定させた。その後打ち合わせ内容をもとに、道順と児童引率班・ワークシート班のメンバーを決定した。また、道順は3グループに分けた。

8月 8月10日には現地視察を行い、道順の時間計測、交通状況、説明時に注意すべき事項などを確認した。8～9月にかけて各ゼミから当日着用するジャンパーに使用するロゴ案を募集し、9月26日に決定した。ロゴ案は山内愛弓（3回）が作成した。

10月 10月7日には上杉和央（教員）と大須賀丈汰郎（3回）が三山木小学校にて小学校教員と打ち合わせを行った。その際、事前に作成した各班の説明動画を視聴した。

10月28日には京都府立京都学・歴史館3階演習室I（歴史）にて予行練習を行い、全体の流れを確認した。

## 3. 当日までの流れ

まず、当日の流れについて述べる。

8時にJR三山木駅に集合し、ジャンパー・名札配布と写真撮影を行った。その後各班員は担当場所へ、引率班と写真撮影係は三山木小学校へ向かった。8時35分より梅野留美子（4回）が司会を務め出発式をしたのち、児童2組につき引率学生2人が同行し順次出発した。

3点の学習地をまわった後、三山木小学校4年生教室にて引率班が学習の振り返りを行っ

た。ワークシートのまとめ欄の記入、クイズの実施などで学習のまとめをした。引率班以外は説明終了後現地解散、引率班は振り返り終了後解散した。(武田知奈)

## A 班 (佐牙神社班)

### (1) 当日までの流れ

A 班では主に SNS で連絡を取り合い、重要な打ち合わせは対面もしくはオンラインで会議を行うようにして段階的に準備を進めていった。まず、6月に各ゼミで佐牙神社に関する情報収集を行い、7月には多くの情報からテーマを絞り、パネルやクイズを考案した。10月中旬には対面で打ち合わせを行い、当日の発表内容や発表者の配置、小学生の移動、当日の役割を決定した。その後は当日の流れを再確認しながら発表時間や動線を調整したり、それに合わせてパネルも調整した。

### (2) 当日の様子

A 班は佐牙神社境内で佐牙神社に関する発表を行った。ここでは二礼二拍手一礼を説明した上で実践し、佐牙神社と三山木小学校校歌の関連、佐牙神社の名の由来について解説した。その後は1組と2組で別れ、1組は本殿を見学し、2組には砂まきについて説明した。1組が本殿見学を終えた後はそのまま手水舎の前に集合してもらい、神社の参拝のルールとして手水舎での手の洗い方を解説し、2組は拝殿まで移動して本殿を見学してもらった。

1・2組の発表後、先ほどの発表を振り返って次の発表に向けての打ち合わせを行った。次の発表の人数の規模を考慮しながら発表内容を割愛したり、生徒の移動を省略して短い時間の中で重要な点だけはしっかりと聞いてもらえるように変更した。実際に小学生が階段を上って境内に来るところから全体で発表し、本殿を見学して佐牙神社から帰っていくところまでを確認した。また、次の発表では大勢の小学生に備えるためにB班に応援を要請していたので、A班の現状と説明して次の発表の段取りを打ち合わせた。

続く3~6組の発表では基本的には打ち合わせ通りに行い、小学生の移動や整列、時間の調整はその場で合わせた。ここでは先ほどと同様に拝殿前で各組ごとに整列してもらい、全体で佐牙神社の発表を行った。全体の発表の中でワークシートを使用する際には、パネル係が周囲の小学生に声掛けをして様子を伺うように注意している。発表後は1組ずつ本殿を見学してもらい、そのまま階段前まで移動して帰る準備をしつつ、佐牙神社の見学のまとめを行った。

### (3) 次回へ向けての反省

A 班では以前に各ゼミで調査していたこともあって佐牙神社の下調べなどの準備は比較的スムーズに進めることができた。それらを取捨選択し、実演やクイズを交えたりして説明の仕方を工夫したので、小学生には私たちが伝えたかったことをきちんと聞いてもらえたと思う。しかし、現地での事前練習ができていなかったり、時間が足りなくなった場合のシミュレーションが綿密に行えてなかったりしたため、当日に調整しなければならない事態が発生していた。こうした上手くいった点や反省点、改善点は今後活かしていきたい。(山内愛弓)

## B班（山本駅・寿宝寺班）

## (1) 当日までの流れ

B班は学生が山本駅石碑班と寿宝寺班の各解説をおこなうグループ2つに分かれ、解説用パネル、原稿を作成した。事前に現地でリハーサルをおこない、当日は生徒を山本駅石碑と寿宝寺のそれぞれに分けて1クラスずつ説明し、終了後に生徒の入れ替えをおこなった。両班、解説用パネルを3冊用意し、パネルを持つ係、解説者、双方を行き来するタイムキーパーを設ける体制で進化した。全クラスの生徒に説明したのち、A班の佐牙神社の補助に向かった。以下、山本駅石碑班、寿宝寺班各々の当日の様子をまとめる。

## (2) 当日の様子

寿宝寺に安置されている十一面千手千眼観音立像（以下、千手観音立像）の特徴解説に時間を確保し、観音像の希少性と千本の手が有する意味を、生徒に挙手させ三山木小学校の全校生徒数と比較し、想像しやすいように解説した。続いて寺の移動した経緯を生徒に問いかけ、なるべく交流をしながら木津川の洪水と関連させて説明した。原稿は生徒の様子に合わせて事前に用意したものよりかなり簡略化したが時間調整の小ネタのために、千手観音立像が境内のどこに安置されているかをクイズにした。

山本駅石碑班は、交通の要衝としての三山木の姿を知ってもらうことを目的として発表を行った。石碑が「歴史を今に伝える」文化遺産であることを理解してもらえよう、まず石碑に刻まれた文字を読んでもらい、その意味を解説した後で、駅制や駅家の意義について説明した。こちらから一方的に説明するのではなく、適宜問いかけを行い、挙手した生徒に答えてもらう形式をとった。また、駅制を運動会のリレーに準えて説明するといったように、小学生にとって身近なもの結びつけて説明することを心がけた。

## (3) 次回へ向けての反省

全ての組で積極的に挙手する生徒が見られ、意欲をもって参加してくれていることを感じた。しかし、対象とした生徒は1年前に地域学習の一環で山本駅について学んでいたことが発表中に発覚するという事態が生じた。来年度からは、事前に小学校側が行っている地域史のカリキュラムを把握した上でプログラムを組む必要がある。

反省では作業量の偏り、本番数日前の慌ただしさ、当日の連絡系統の不備などの課題点があがった。今後の参照とされたい。（岩本悠梨・横白彩江）

## C班（茶畑）

## (1) 当日までのながれ

C班の班会議は6月に2回、7月に1回、9月に1回、10月に2回の計6回開いた。6月、7月、10月それぞれの月の末に予定されていた全体会議に向けて段階的におこなった。まず9月までに三山木地区を含む京田辺市のお茶についての下調べと大まかな発表内容を決定した。そして10月はパネル作成と実験準備にあたった。10月からはいくつかの準備を同時並行でする必要があったので、地理ゼミは台本作成と全体準備、考古・建築ゼミは実験キット作成、文化情報学ゼミはパネル作成という具合にゼミごとに役割を分担して進めた。

## (2) 当日の様子

C班は玉水橋の南にある木津川左岸の堤防で発表をした。班員はスポットCに8時30分ごろに集合を完了した。5・6組の到着予定時刻である9時05分までに実験キットの準備と最終確認を済ませたが、時間の余裕はそれほどなかった。予定通り5・6組を終えると、次の3・4組がすでにスポットCに到着していた。その後の3・4組と1・2組の間は5分ほどだった。

小学生は、列の変更・移動・起立着席・質問の受け答えなどすべて指示通りに動くことができた。また、三山木小学校の4年生は、理科の授業で校庭の砂などを利用した水の浸透速度に関する同様の実験を経験したばかりであり、授業と絡めながら話を進めることで、理解を促すとともに記憶の定着にも繋がったように思われる。

C班は他班よりも早く、予定通りに終了したが、実験キットの片づけにおよそ1時間要した。  
(3) 次回へ向けての反省

実験の準備については、道具調達の困難さ、複数回の調整が必要だったことから夏休み中から準備に取り掛かるべきだった。また、当日は実験キットの準備と片付けの時間を省く余地が大いにあるため、工夫したほうがよい。(青柳隆慈)

#### 4. まとめ

以上が、今年度文化遺産学コースの学生が京田辺市立三山木小学校の4年生の児童を対象におこなった地域学習授業の概要である。授業後の児童たちの感想では「いつもよく行く公園の横にお宝があることを知っておどろいた」「三山木の名前の由来がおもしろかった」「三山木に重要文化財があることを知れてうれしくなった」などの声があがっていた。児童たちにとっては、今回の活動の中で自分たちの住む三山木に様々な「お宝」があることにはじめて気づくことも多く、その魅力を感じることができたようである。児童たちが楽しみながら身近な地域の魅力に気づくことができたという点で、今回の実践はひとまず成功したと言えるだろう。



写真1 当日の集合写真

しかしながら今年度ではじめての実践ということもあり、すべて手探り状態の中での活動となったため、準備段階や当日の活動の中で課題点も多く見られた。本番終了後の三山木小学校や文化遺産学コース内での振り返りでは、大学・小学校・市での話し合いを事前にもっとおこなうべきだったなどの連携に関する問題点や、もっと余裕をもった日程調整が必要であったというような反省点があがっており、来年度は今回の実践で得た経験をもとに様々な部分を改善することが求められる。なお、来年度は今年度に引き続いて京田辺市立三山木小学校と、新たに京田辺市立草内小学校において地域学習授業を実施する予定である。新たに文化遺産学コースに加わるメンバーとともに新体制のもとで活動をおこなう来年度の実践は、今年度の反省をいかしたより良いものとなることを期待する。(藤川聖起)

#### 編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱い、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---